第11講

小幡道昭

2016年6月30日

今回のねらい

- 資本主義とは何か、その基本規定を与え、
- そのもとで、協業と分業という二つの労働組織の違いが
- どのようなかたちで現れるか、考えてゆく。

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 1

1. 資本主義的生産様式＝資本が多数の労働力を購入して協業を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
   1. 営利企業（＝資本：第 1 部「流通論」）
   2. ＋協業（大量生産のための労働組織）
2. 資本主義経済（資本主義社会）＝社会の生産全体が資本主義的生産様式によって組織されている経済（社会）

資本主義と一般的にいう場合は、「資本主義経済」のこと。

労働力商品とは(p.123)

営利企業と協業が結びつくための条件は、労働力が自由にいくらでも買えること

定義 2

「二重の意味で自由な労働者」

1. 身分関係に縛られることなく労働者が自分の労働力を自由に売買できる独立した主体であるという積極的な意味
2. 労働手段も労働対象も所有していないという消極的な意味

定義 3

商品= 他人のための使用価値

定義 4

労働力商品= 他人のための労働

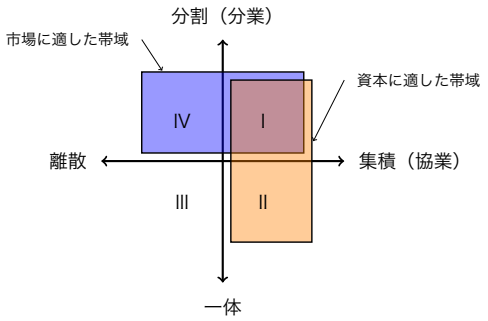
労働力の商品化(p.123)

定義 5

労働力の商品化

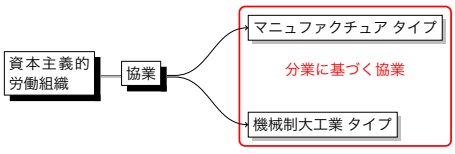
1. 個別資本の観点からみて、労働力が商品として与えられているという条件
2. どの産業においても、労働力が通常の賃金で必要なだけ調達できるという条件
3. ２番目の条件は、歴史的に特殊。
4. 「労働市場」の成立。

協業＋分業と資本主義的生産（p.124）

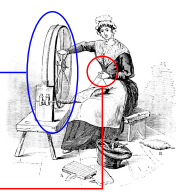


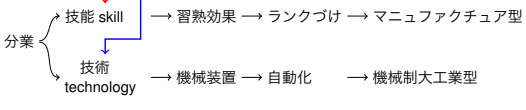
資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

- 資本主義的労働組織に共通する特徴は、「集団力」を基礎にした大規模生産。
- 家内工業 domestic system （個人企業）は資本主義にあわない。
- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- それは、「マニュファクチュア」のタイプと 機械制大工業のタイプに分岐して現れる。
- 「マニュファクチュア」というのは、機械装置ではなく、人手 manual labor を組み合わせた組織。



分業に基づく協業



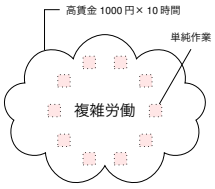


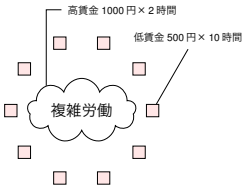
分業に基づく協業

分業の効果

分業はなぜ生産力を高めるのか？

技能
- 同質の労働力 ⟶ 流れ作業 ⟶ 協業の効果 ⟶ スミス的効果
- 単純作業の分離 ⟶ 補助労働の導入 ⟶ 賃金コスト低落 ⟶ バベッジ的効果





マニュファクチュア型(p.127-130)

- スミス的分業：２０世紀末の新興諸国 iPhonen 製造過程
- 機械と労働 鍛造の例
- マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。
- バベッジ的効果を理解しよう。これが手がかりになる。
- 「マニュファクチュアの展開形態」(p.129）が遺物ではない例。病院。学校...
- 「企業がアウトソーシングをおこなったり、補助作業への派遣社員導入で正社員を削減したりする場合」(p.130 下から 1 行目）にチェック
- 分業 = スミス的効果 ではなくて、
- 分業 = スミス的効果 + バベッジ的効果と考えないと、先進資本主義国の現実が見えなくなる。

機械制大工業 タイプ

次のような考え方は、今日なお通説的である。

- 資本主義が発達すると、生産様式は「機械制大工業」になってゆく。
- そのもとで労働はどんどん「単純化」する。
- 事実、19世紀中頃のイギリスの資本主義をみると、中心産業である綿工業では、女性や子供でも可能な単純労働が中心になっている。
- 資本主義は、産業革命を通じて、機械化により熟練を解体することで確立した。....
- 紡績工場の例 日本の場合も
- しかし、すべてが機械制大工業になってゆくわけではない。
- ☞問題84 85

機械制大工業
コンピュータ

問題

コンピュータは機械か？（機械とはなにか、を考えるヒント）

- あんなのは道具だ、機械じゃない。だって.....
- 人がキーボードをたたかないと何もしないんだから.....

- ただ、ネットワークの発展をみていると、コンピューターとコンピューターが交信している、っていう面もある。
- 人間が手をださなくても、モノどうしが反応しあう、という「自動性」が機械の定義なら、ちょっと機械に近づいてきたのな...
- われわれは、知的活動のレベルで、人間労働が新たに解体されはじめた時代に生きている。